

令和6年度 第2回長野市文化芸術振興審議会 会議録（概要）

日 時 令和7年2月19日（水） 午後2時から3時30分まで

場 所 長野市役所第一庁舎7階 第3委員会室

出席者 委 員：多田井委員、樋口委員、小山委員、柳澤委員、  
山本委員、北原委員、黒坂委員、渡邊委員（8名）

事務局：（観光文化部）小林部長

（観光文化部文化芸術課）峯村次長、前田主幹、檜本補佐、山岸補佐、  
傳田係長、村松主事、北澤主事

（観光文化部文化財課） 山本補佐

資 料

- 資料1－1 令和7年度長野市文化芸術振興事業の概要
- 資料1－2 令和7年度長野市芸術文化振興基金活用事業の概要
- 資料2－1 令和7年度 長野市子ども文化芸術賞 募集要項
- 資料2－2 長野市子ども文化芸術賞 選考要領
- 資料2－3 令和7年度 長野市子ども文化芸術賞 候補者一覧
- 資料2－4 令和7年度 長野市子ども文化芸術賞 候補者選定資料
- 資料2－5 長野市子ども文化芸術賞 過去5年の受賞者一覧
- 資料3 中学校部活動の地域移行について

次 第

- 1 開会
- 2 観光文化部長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 議事
  - (1) 令和7年度 文化芸術振興事業の概要について
  - (2) 令和7年度 長野市子ども文化芸術賞受賞候補者の選定について
- 5 その他
  - 中学校部活動の地域移行について

## 会議録（概要）

（事務局） 「４ 議事(1)」について一括説明

（質疑なし） 原案のとおり承認

（事務局） 「４ 議事(2)」について一括説明

（質疑なし） 原案のとおり承認

（事務局） 「５ その他」について説明

（以下、質疑）

（委 員）

部活動の地域移行について、スポーツ部は先行して進んでいるが、文化部は遅れがちのことである。先ほど文化部は、令和８年度には休日及び平日とも地域移行できるように進めていくとの説明があったが、このままでは、（過渡期となる）令和７年度中から希望する文化部が無くなる。担当課だけでは難しいことも多いが、計画を前倒しでやっていかなければ、来年度から多くの子ども達が行き場を失ってしまう。

併せて、令和７年度の事業計画では、長野市芸術館が建設された当時と比較して、事業が多岐にわたっており、事業の１つに、「子どものための文化芸術プログラム」がある。この事業は、鑑賞会やコンサートの開催といった内容であり、子ども達に関心を持ってもらえるように、学校や地域へ働きかけるということも必要だと思う。

もう一点心配していることは、様々な方が指導に当たる場合に、子ども達に対する接し方が大切だと思うが、昨今、指導者の暴力行為を耳にすることである。指導者への対応や研修を適切に実施していかなければならない。慌てて指導者を付けたとしても、多くの子ども達が、せつない思いをしてしまう部活動になってしまっているといけないと思う。

このことについては、学校教育課からの指導も大切だと思う。

（事務局）

文化部活動の地域移行については、できる限り前倒しで進め、受け皿となる団体についても各関係者と協議を行いながら進めていきたい。

また、生徒達が行き場を失ってしまうということであるが、例えば、吹奏楽部や合唱部のようにそのまま活動を移行するという考え方で進めている団体として、N J B（長野ジュニアバンド）やNJC（長野ジュニアコーラス）がある。一方で、既存の部活動の体制のまま単に部活動を地域へ移行するということではなく、既存の団体やサークル等の情報提供も行い、生徒たちが様々な選択肢から活動を選択できるように考えていきたい。

指導者の質について、先程説明したN J BやNJCは学校の先生又は部活動指導員が指導に当たっており、そういう意味では生徒の指導に長け、ルールを遵守していただける方に対応いただけていると思う。ただし今後は、民間の指導者の力も借りなければ地域移行が進ま

ない。県の方で研修等を実施する予定なので、そうしたものも活用しながら生徒に適正な指導ができる環境を提供できるように十分配慮していきたい。

(委 員)

部活動の地域移行について、担当課で苦労していることは理解できる。  
例えば、地区の書道教室やピアノ教室などに通っている子ども達もいると思うが、そのような教室は移行先として対象になるのか。

スポーツ部の方では、地域型スポーツクラブのように様々な団体が有料で活動を行っているため、文化部の方でも幅広く考えていかないと、今まで学校の先生が苦労されて実施してきた部活動をそのまま地域に移行することは、おそらく難しいと思う。

部活動に参加することは義務ではなくニーズと捉え、市としては環境を整えていくという姿勢だと思う。なお、今後、地域に移行された部活動は有料になると思うが、今まで無料だったことに対する抵抗のようなものはないか。

(事務局)

N J BとN J Cは部活動の移行が休日のみであることから、参加費は今のところ年間5,000円～1万円となっている。本市では、「みらいハッケンポイント」が参加費に充てられることもあり、費用について苦情等は受けていないが、今後、平日も含めて移行する場合には、今以上にご負担をいただく場合もある。一方で、スポーツ部では現在の文化部の参加費を上回るご負担をいただいている活動もあることから、教育委員会とも連携し、ある程度の受益者負担がなければ継続的な活動が実施できない旨を説明させていただいている。

また、子ども達が興味を持って続けたいと思う部活動の中には、既存の教室やサークルなどの活動もあると思われ、そのような活動についても子ども達への情報提供を考えていきたい。

(委 員)

部活動の地域移行は、急いで進めてしまうとうまくいかないと思う。また、地域ごとに指導者がいる地域もあれば、全くいない地域もあるので、それぞれの地域にあった形を考える必要がある。例えば、本日選定した皆さん（子ども文化芸術賞の候補者）は、おそらく、先生をセレクトしていて、自身の地域の中で活動をしている訳ではないと思う。そのような意味で、幅広く、できるだけ文化芸術に触れる子どもを育てたいという趣旨で進めてもらわないといけないと思う。

行政として、何が何でも環境を整えるのではなく、活動を行いたいと思っている子ども達が活動できるような環境をどのように作っていくか、幅広く考えてもらいたい。エリア限定で進めてしまうと、中山間地域はどうするのかという問題も出てきてしまう。

(事務局)

私たちも部活動が地域にこのままの形で入るとはとても考えられない。

地域移行という言葉からすると、地域に部活動が今と同じような形で移行するというイメージに捉えられがちであるが、内容的には、地域にある大小様々なクラブに子ども達の活動の場を設けていくというものである。

地域移行とは広い意味であって、それぞれの地域性を踏まえ、吹奏楽、合唱のような集団で活動するものは、今までの部活動のような仕組みがないと、うまくいかないことが予想されることから、先行して休日の移行を行ったものである。令和7年度は平日の移行に向けた準備を行い、令和8年度から移行する。

その他の活動については引き続き、地域の中で受け皿となっていたいただける方々を探し、子ども達に情報提供を行い、各自で活動を選んでいただけるような形になっていくことを想定している。地域移行という言葉から部活動が地域で行われるというイメージが先行してしまっているため、今後は、地域においても丁寧に説明していきたい。いずれにしても、非常にハードな事業であるため、職員も慎重に進めている。

(委員)

長野市にはアマチュア劇団がいくつかある。

アマチュア劇団の団員が指導者として来てくれればよいが、普段勤めている方が劇団の理事や委員になっているため、指導者として出て行くことは難しいということを市民演劇祭実行委員会の会長とも話している。そこで中学生を保護者同意のもと、受け入れてくれる市内の劇団を探し、自主公演など一緒に参加するという方向性もあると思う。また、演劇は少しマイナーな分野で指導者がなかなか見つからないという問題がある。私が知っている限り、フリーで休日でも指導できる人は1人しか思い浮かばない。

そこで、地域移行ということなので、部活動という形でなくても、例えば、指導者が見つかった場合、市内の地域に関係なく集まって練習を行い、長野市民演劇祭の中学校公演で発表することや市民演劇祭実行委員会が開催する演劇ワークショップに参加することなども考えられる。ただし、金銭面については、演劇の特性上、衣装費、会場費など、保護負担が増えてしまうという心配はある。

ただ、実際、市民演劇祭実行委員会の会長の劇団で小学生も一緒に活動している。そのような形で、うまくつなげていき、未来の担い手を生み出してほしい。

これまでは、演劇を部活で中学校から高校まで続け、高校を卒業して劇団に入ってくる流れがあったが、これがもし中学校で途切れてしまった場合には、劇団までつながっていかないことが予想される。

また、生徒指導の話が先程出たが、普段、学校現場を見ていて、やはり、生徒指導は大変だと思う。例えば、お菓子を持って来てはいけない場に持って来てしまう子どもへの指導など、先生方が行っている姿を見ると私にはとてもできないと思った。その点、小布施町では、文化部は地域移行をしていないが、スポーツ部の方で地域の方やコーチを集めて、生徒指導の研修会を行ったと聞いている。

いずれにしても、何か力になれることがあれば、力になりたいと考えている。

(事務局)

演劇の団体は、市内にいくつかあるようであるが、団体の把握が非常に大変なので、市民演劇祭実行委員会の皆様からも情報提供をいただきながら、子ども達を受け入れ可能な団体を当たっているところである。引き続きそうした情報をいただきたいと思います。

また、指導者の確保は非常に苦慮しているが、いくつかの団体からご提案もいただいているので、情報収集を行いながら進めていきたい。

(委 員)

地域移行の意味が、市民に伝わっておらず、理解されていない。個人的には合唱や吹奏楽などを定期的に観に行っており、そうした情報を得られるほか、孫からも情報を耳にするが、一般的にはほとんど耳にされていないと思う。もっと広く市民に対して宣伝やPRを行う必要がある。

学校、生徒や父兄など関係者は分かっていると思うが、一切知らない人も多い。この状況のままでは地域移行は進められないと思った。

まずは地域移行の言葉の説明とPRを、市の方でリードして行っていくべきだと考える。

(事務局)

これまで部活動の地域移行に関しては、主に学校関係者、保護者の皆様と、閉ざされた中での広報活動であったが、今後、地域に展開していくためには、地域の皆様に知っていただかないとうまくいかない。教育委員会とも連携しながら、いわゆる「地域展開」そのものについて広く市民の皆さんにご理解いただけるよう取り組んでまいりたい。

(委 員)

指導者がなかなか見つからないことや地域の皆様にも地域移行について理解していただくことなど大変だと思う。

そのような中で公民館関係など社会教育との連携も考えられる。市内の各公民館では様々な講座を立ち上げ、講師の先生にお願いして開催している。中には、講座に10～15年も通っていて、ベテランのような会員もいる。公民館は各中学校の学区内に1つはあるので、講師や会員の方々に少しでも関わっていただき、自分達の地域の子ども達を自分達で支え、育てていくという雰囲気になればいいと思う。

公民館など社会教育関係者に向けてしっかりとPRしていくことも含めて、様々な方面から動いていただければありがたいと思う。

(事務局)

公民館等のサークルは、生徒達の活動の場として把握していかなければならないと考えている。いただいたご意見は、参考にさせていただきたい。

(委 員)

今年1月に信州美術会の総会が松本で開催され、地域移行について県の文化政策課からも同じような説明を受けた。しかし、県の考え方と各市町村の考え方に統一性があるか分からない部分もある。

長野市や松本市のように大きな市の場合は、各地域が1つにまとまって何か実施することは難しいが、例えば小布施町のような町に中学校が1校しかないような自治体は、そこでまとめることができる。大きな市では、地域も特色も分散していて、過疎地域もある。どのように解決すべきか、非常に難しいと思う。

できれば中学校に講師が行って活動することが一番、生徒にとって負担が少ないと思う。学校を離れ、公民館などで活動する場合には、市内各地域から生徒が集まるため、交通手段の確保など問題が発生し、難しいと思う。

まずは、県と市町村で、地域移行の進め方を統一していただきたい。北信美術会としても地域移行について協力依頼の文書をいただいているが、具体的に何をすればいいのか、全く分からない。

北信美術会の会員には現役の美術の先生や元美術教員も多数いるが、高齢化が進み、引き受けられる人材は少ない。若い美術の先生は忙しくて動けないのが現実。

(委 員)

地域の人材が教育現場に参加するプログラムを進めている自治体もある。

例えば、地域人材として音楽の講師が参加する場合には、子ども達を見守るだけでなく、音楽室や楽器も使う。

そのような場合には、その方に音楽の授業のお手伝いをしていただいた上で、地域クラブについても担当してもらうなど工夫をしなければ、地域の方がいきなり学校現場を使うことになり、調整が難しいと思う。

まずは授業のお手伝いのような形で入ってもらうことが現実的だと思うので、教育委員会とも相談してみしてほしい。

(委 員)

中学校で、琴と三味線の部活動を行っているところはあるか。

(事務局)

部活動として把握している中ではない。

(委 員)

三味線や琴などの伝統芸能について、個人的に通っている子ども達は、地域移行の枠組みの中でどのように位置づけていけばよいか。また、今年7回目を迎える伝統芸能こどもフェスティバルを発展させて、この部活動の地域移行と関連づけることはできないか。

(事務局)

子ども達の中には、例えば、吹奏楽部の地域移行後、そのまま吹奏楽を続ける生徒もいれば、吹奏楽部に所属していたが、他の興味ある活動に参加する生徒もいると考えている。その中で伝統芸能も選択肢にあると思う。中学生の受け入れを行っている団体情報も集めていきたいと思うので、その際はぜひご協力いただきたい。

加えて、先ほど、北信美術会との関わりについてご質問いただいた件だが、昨年夏頃、北信美術会の理事会に出席させていただいた際、中学生を受け入れることができる団体あるいは個人について情報提供をお願いしたところ、先日、会員の方から情報が入り、来月早々にでもお話をうかがう予定である。先ほど多田井委員から活動の場として公民館というお話があったが、情報をいただいた団体も公民館で活動しているようなので、中学生の活動の場として検討していきたいと考えている。引き続き情報提供いただけると参考になる。

以上